

新規恒久施設の施設運営計画(中間のまとめ) 概要版 抜粋

海の森水上競技場

施設の位置づけ

- ボート、カヌー（スプリント）等の大会の会場・競技力向上、都民の新たなスポーツ体験、青少年教育の場としていく
- 隣接する「海の森公園（仮称）」など周辺施設と連携し、臨海部の新たなにぎわいの場、憩いの場としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 最高峰の水上競技大会の会場・競技力向上の場として活用

- ボート、カヌー（スプリント）、ドラゴンボート、トライアスロンなどの大会の実施
- 国内選手の強化・育成の拠点等として活用

2 青少年へのスポーツ教育・環境教育の場として活用

- 青少年を対象とした、水上スポーツ体験・スポーツ教育の実施
- 海の森公園（仮称）の森づくり、環境関連施設等と連携した環境学習の実施

3 多様なスポーツに親しめる機会を創出

- サイクリング、屋外ヨガのほか、ランニング、スタンドアップパドルボードなどアウトドアスポーツの実施

4 様々な人が集い訪れるにぎわいの拠点として活用

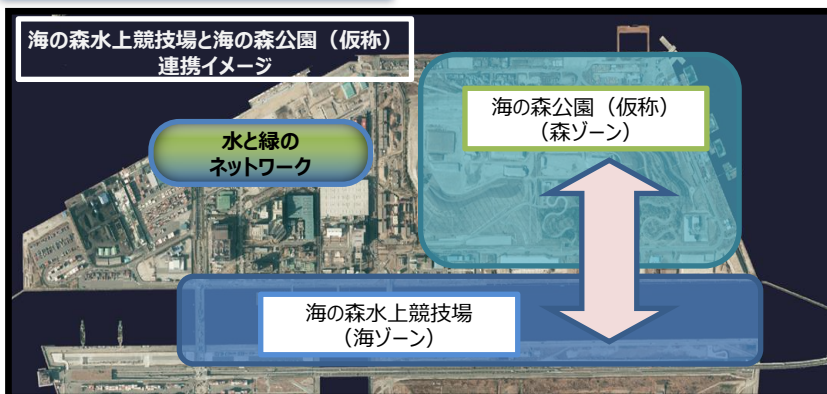
- イベント・イルミネーションなどによる冬季の利用促進
- 市民参加型のアートイベントやフードイベントの開催、企業研修やセミナーなどの誘致

III 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
競技コース	競技利用 ・ボート ・カヌー（スプリント） ・ドラゴンボート ・トライアスロン 等	大会利用											
		練習利用・合宿など											
施設	レクリエーション利用	水上スポーツ体験											
	フィットネス						フィットネス						
その他	飲食・宿泊利用						レストラン、宿泊施設など						
	イベント				イベントなど				イベント・イルミネーションなど				
その他	アウトドアスポーツ				サイクリング、アウトドアフィットネスなど								
	環境学習など				環境学習など								

濃色：主な利用を想定する時期

II 周辺地域との連携



隣接する海の森公園（仮称）と連携した水と緑のネットワークの拠点として、自然を享受し、水辺に親しめる憩いの場としていく

○ 連携のイメージ

- ・利用案内・情報提供の効率化
- ・駐車場・宿泊施設・飲食施設の相互利用
- ・連続性のあるサイクリング・ランニングコース・散策通路 等

○ 連携による効果

利用案内の効率化、施設間の相互利用、効果的な事業展開 等

IV 年間来場者目標

約35万人

（競技利用、レクリエーション利用 等）

オリンピックアクアティクスセンター

施設の位置づけ

- 国内外の主要大会の会場、アスリートの競技力強化・育成の場としていく
- 子どもから高齢者までが安心して、日頃からスポーツ活動や健康増進を行うことができる場としていく
- 海上公園との一体感やつながりをもった都民の憩いの場としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用

- 競技力向上事業の展開（オリンピック・パラリンピアン水泳教室、こども水泳スクール）等
- レーン貸し（団体利用）等

2 子どもから高齢者まで幅広く楽しめる水泳場を提供

- アクア水上レジャーひろば
- 健康増進事業（水中歩行、アクアピクス、ベビースイミング）等

3 大会運営諸室を有効活用し、健康増進、文化・教養活動を推進

- スタジオにおける健康増進事業（ヨガ、エアロピクス）等
- 会議室を活用した子どもの一時預かり、スポーツ関連セミナー、文化・教養講座 等

4 都民の憩いの場として、海上公園と一体になったにぎわいを創出

- デッキ等におけるイベントの開催 等
- オリンピック・パラリンピックメモリアルコーナー、休憩・談話コーナーの設置 等



III 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインプール	大会時	国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時	専用利用（レーン貸）/選手育成コース等											
サブプール	大会時	国際・国内大会、都大会等を開催											
		個人利用											
	通常時	早朝一般開放											
		専用利用（レーン貸）/こども水泳教室 等											
その他エリア	スタジオ	個人利用											
		水中歩行、アクアピクス、ベビースイミング 等											
	トレーニングルーム	水上レジャーひろば（学期間）											
		ヨガ、エアロピクス、健康増進講座等/空き時間は専用利用											
会議室	会議室	個人利用/スタジオとの一体利用事業等											
		文化・教養講座、子どもの一時預かり/空き時間は専用利用											

デッキ等を活用したイベント（年1回）

II 周辺地域との連携

【連携のイメージ】

- 施設及び公園の相互利用促進
 - ・ 周辺公園内にランニングコースを設定、ランナーやニュースポーツ等公園利用者による施設内更衣室、シャワーの利用 等
- にぎわいの創出（デッキを中心として）
 - ・ 全館を活用した大規模な催しや、大型ビニールプールを設置したイベント開催 等
- アクセス改善
 - ・ 案内サインの表示、園路灯の改善 等

IV 年間来場者目標

約100万人

大会利用・観戦、
一般利用・教室等



施設の位置づけ

- 大規模なスポーツ大会やイベントの開催に加え、都民が日常的にスポーツに親しめる場を提供していく
- ウォーターフロントの景観を活かしたにぎわいと潤いのある、東京の新たなスポーツ・文化拠点を創造していく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 質の高いスポーツ観戦機会等の提供

- 国内外の主要な競技大会を開催し、東京の魅力を世界に発信
- メインアリーナについては、一定期間、スポーツ床期間（仮設のスポーツフロア）を設定

2 魅力的なエンターテインメントの場の提供

- コンサート等の文化イベントの開催など、都民に夢と感動を与える機会を創出

3 身近なスポーツ施設としての機能の発揮

- サブアリーナ等を活用し、都民が日常的にスポーツに親しめる環境を提供

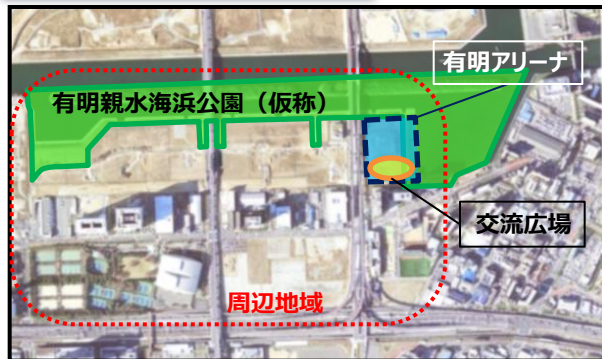
4 多様なコミュニティの場の提供

- サブアリーナ等の一般利用や交流広場を活用したイベント等の開催

5 施設周辺との連携によるにぎわいの創出

- 施設周辺の親水空間や近隣施設と連携した各種事業の実施

II 周辺地域との連携



【連携のイメージ】

- 有明親水海浜公園（仮称）との連携
（例）ランニング・ウォーキングコースの設定
ランニングステーションとして有明アリーナの更衣室、ロッカーを利用
- 交流広場でのにぎわいの創出
（例）フリーマーケット、キッチンカー、イベントの開催など

III 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインアリーナ	スポーツ	国際・国内大会、興行スポーツ等											
	コンサート等												
	その他	卒・入学式等		株主総会等					企業運動会等（適宜実施）				
サブアリーナ	スポーツ	都民利用・スポーツ教室等											
	イベント	スポーツ振興イベント等											
その他	フィットネス・スタジオ	フィットネス指導、レッスンプログラム、サブアリーナと連携した教室											
	テナント（カフェ・レストラン）	スポーツ大会やコンサート来場者、近隣住民、公園利用者の利用											
	施設周辺との連携	交流広場でのフリーマーケット等、公園でのイベント等											

IV 年間来場者目標

約 140 万人

〔競技利用、コンサート利用、イベント利用 等〕